

9月定例記者会見 会見録

平成30年9月5日（水）11：00～

9月定例記者会見に当たり、私から報告をさせていただきます。

はじめに資料1、「グレーチング蓋の盗難の多発について」です。

今年度に入り、市内西部を中心に道路側溝のグレーチング蓋の盗難が多発しています。昨年度2件の発生件数だったものが、今年度は8月末までで、すでに15件の盗難が発生しています。

今後、被害の状況に応じてチェーンやボルトなど盗難防止策を講じていくとともに、被害が多発している区会への回覧や市報、ホームページなどで市民が側溝に落ちないよう注意喚起をし、発見した場合には、市や警察へ通報をいただくよう呼びかけていく予定です。

また、警察との連携を密にして情報共有するとともに、防犯サポーター等によりパトロールを強化していきます。

資料2は、「つくば市未来構想等改定のための市民ワークショップの開催」についてです。

現在、市のまちづくりの基本的な指針として「つくば市未来構想」の策定を進めているところですが、つくば市の未来像を市民と作り上げるため、ワークショップを12月までに3回開催します。

第1回目は、「つくば市のいい所、残念なところって？」をテーマに9月30日に市役所で開催します。

資料3は、「SDGsを考えるまちづくりカフェ」の開催についてです。

「持続可能なまち」って何だろう、将来も住み続けることができるまちをつくるため

は何が必要で、自分はそのために何ができるのかについて、みんなで身近なところから考えるためのワークショップを開催します。

ワークショップは全3回とも同じ内容で開催し、第1回は9月27日に市役所で開催します。

資料4は、「周辺市街地まちづくり合同勉強会」の開催についてです。

現在、つくば市合併前から生活の拠点として発展してきた周辺市街地において、市街地の活性化に向けた取組を進めているところです。

地域の対話や協働の場を創出し、周辺市街地振興を図っていくため、昨年度から勉強会を先行実施している小田、谷田部市街地に加え、今年度から、その他の6市街地でも勉強会を実施していきます。

そのスタートとして、9月29日に市役所で8市街地合同の勉強会を開催するものです。

続いて資料5、「タウンミーティング“会える市長” with 中高生」の開催についてです。

市民第一の市政実現のため、市民の意見を今後の市政にいかしていくため、これまで各地区でタウンミーティングを開催してきました。

このタウンミーティングの一環として、中学生・高校生と市長が自由に語る会を10月28日にBiViつくば交流サロンで開催します。

次世代を担う中学生・高校生に市政への関心を高めてもらう機会を創出し、市への愛着・シビックプライドを醸成するとともに、若年世代ならではの視点による市への意見等をお聴きし、市政にいかしていきます。中高生限定で実施するのは、初めてとなります。

質疑応答

■グレーチング蓋盗難について

記者

グレーチング蓋盗難の多発の件なんですけども、盗難が発生する時間というのは夜間が多いのでしょうか？

道路管理課長

時間帯はバラバラです。

記者

昼間盗まれるというケースもあるんですか？

道路管理課長

この間区長さんから、昼間の午後3時頃見について、次に午後5時頃見に行った時にはなかったと受けています。

記者

昨年度、つくば市で2件だったものが既に15件ということなんですけど、近隣の市町村なんかでも増えているのでしょうか？

道路管理課長

近隣の市町村で確認したところ、土浦市は今年はない、常総市なし、桜川市もなし、牛久市もなし、ただ、つくばみらい市は市道で1件、県道で4月と7月にあったということです。

■SDG s まちづくりについて

記者

SDG s について、市のシビック事業ですが、数値目標を盛り込んだものを9月中につくるという話を聞いたのですが、進捗状況というのはどうなっていますか？

政策イノベーション部長

その経過につきましては、未来都市の選定を受けた後、内閣府の事務局と内容について8月いっぱいまで調整をしておりました。内容の調整がほぼ終わりましたので、今後庁内の決裁に回そうとしておりますので、9月の中旬までにはできるかと思えます。

■中高生とのタウンミーティングについて

記者

改めて、中高生とのタウンミーティングを開くねらいと、選挙権が18歳に引き下げになりましたけど、その点から見て中高生が市政に興味を持つことでどういった効果かのぞめるのかといった点について教えてください。

市長

まちというのはあらゆる世代で成り立っていますが、中高生、あるいは小学生もそうですが、なかなか次の世代の人たちの声を反映させる仕組みというのがないというのは大きなテーマです。そういう中で中高生に限定をすることで彼ら彼女たちの政治的、あるいは行政に対する関心を高めてもらうというのはもちろんですけども、私としてもどういった意見をもらえるのかというのは期待をされていて、そしてそういったことをまちづくりに活かしていきたいと考えています。直接的に申し上げれば、いわゆる通常のタウンミーティングで高校生が来てくれまして、ぜひ子ども向けにもやってほしいという声もありました。そういうことも踏まえての開催となります。

記者

若者ならではの視点というのを期待されている？

市長

必ずしも独創性に富んだものでなくていいのですが、今の若い人たちがどういうことを感じているのか知りたいというところがあります。やはり私も政治の世界では若いといわれていますが、40歳というのは彼らから見たら完全なおじさんでありますし、その認識を持った上で、今20歳くらいの学生と話すと、やはり我々とは別の感性を持って、いろんな世界を見ていますので、そういう若い世代の感性がどういうものを見ていますのかという、そういうことを私自身も感じることができればいいなという風に思っています。

記者

若者となるとなかなか行政と触れ合う機会がなくて、どれくらい集まるかというのが心配なんです。どういった風に、例えば学校とか通じてやると優等生ばかり集めてくるとかになりかねないと思いますが、そのあたりはどういう風にして募集しようと考えていらっしゃるのでしょうか？

広聴室長

周知につきましてはまず、広報つくばの9月号及び、ホームページの方に既に掲載しておりまして、市報の方は8月の下旬から配布され始めたところですので、まだ申し込み状況というのはそんなに多くない状況です。

現在、記者の皆さんにお配りしたチラシの印刷を進めておりまして、9月の中旬以降、市内の該当する学校には全生徒分全て配布しまして、生徒一人一人に学校を通じてお渡しいただく、なお、今回市内在住・在学両方を対象としておりますので、市外の高校及び私立中学校等につきましてもつくば市からある程度の生徒さんが行ってらっ

しゃることが考えられる学校に対しては、ポスター・チラシを設置しての周知を考えています。

■グレーチング蓋盗難について

記者

素材は何でしょうか？

道路管理課長

鉄です。

記者

転売目的？

道路管理課長

警察の方と話してるんですが、転売目的だろうということです。

■市民ワークショップについて

記者

ワークショップを開催すること自体、市民の意見を聞くということでいいと思うのですが、構想などに反映する際の位置づけ的なものというのほどのように考えてらっしゃるのか？

政策イノベーション部長

未来構想につきましては、今年度から来年度にかけて作業を行ってまいります、今年

度で未来構想の未来像の素案みたいなものを出していきたいと思っています。その際に市民のニーズというのがどういうものがあるのかというのを、このワークショップだけではなくて、アンケートも行いながら、市民のニーズをデータとして、情報として集めていき、最終的にはその他、様々な社会情勢のデータなどを踏まえながら、未来像を庁内のワーキングチーム及び審議会で作っていくという流れになっています。

記者

ワークショップ自体は、意見の反映としてはどのような位置づけになるのでしょうか？

政策イノベーション部長

位置づけとしては、作っていく作業の中で一つの参考のデータという位置づけになると考えています。ただ、市民の方々からいただいた非常に重要な意見だということはしっかり認識して取り扱っていきたいと考えています。

記者

別途アンケート調査も行いますか？

政策イノベーション部長

はい。アンケート調査も行う予定です。

記者

それはどういう予定になっているんですか？

政策イノベーション部長

アンケート調査につきましては、対象範囲も含めて前回の審議会でもいろいろご意見いただいたところでございますので、対象範囲どうするか、どういった内容にするか、今、検討してるところでございます。

記者

方法も未定ということでしょうか？

政策イノベーション部長

方法は、Web などを使いながらやっていきたいと思っておりますが、そこも含めて今後考えていきたいと思っています。

記者

時期はいつですか？

政策イノベーション部長

時期は秋を目処にしていたのですが、審議会でもいろいろご意見いただいたところでしたので、見直しているところでございます。

■グレーチング蓋盗難について

記者

つくば市だけ盗難が増えているというのは、何か理由を分析されているようなことはあるのですか？

道路管理課長

理由は不明です。

記者

もちろん、盗った人でないとわからないと思いますが、警察の方は理由に関して何か話してないですか？

道路管理課長

警察の方でも話しておりません。

■中高生とのタウンミーティングについて

記者

今回だけの催しになりますか？それとも定期的を開催することを市長は考えてらっしゃるのでしょうか？

市長

今回は単発のものですが、実施したうえで若者たちのまちへの関心を高めていくような効果、あるいは若者たちの声がいい形で聞けるなどと思えば定期的にやっていくことも考えています。

記者

同じような試みを他の市町村でやってる所はあるのでしょうか？

市長

宮崎県日南市がやっているそうです。

広聴室長

他の自治体につきましては、このような形よりも市長や議会との会談という形で学校から代表を派遣してる形が多いと思います。今回の場合は、先ほども優等生のような子ばかりが集まってしまうのではないかというお話がありましたけども、学校から推薦という形ではなくて、あくまでも個人で申し込みいただくという形ですので、このようなケースは非常に少ないかなと思われまます。少なくとも県内では初めてではないかと思ひます。

記者

大学生を入れなかったのは理由があるのですか？

市長

大学生は大学生でやりますね。

広聴室長

9月27日に恒例の事業になりますが、市長と筑波大学生の懇談会という催しがございまして、こちらは既に周知等行っているところなんですけど、あくまでも大学を限った形の開催となっておりますので、このあり方についても今後検討していきたいと考えております。

■クレオ再生について

記者

都市整備の方は年内に売却したいという意向のようですが、改めてどのような形で今後のぞまれるのか？

市長

昨日全員協議会で報告したとおりですが、6月に議決いただいて現在進めている検討業務について、できれば9月中に皆様にお示ししたいと考えております。その上で、市民の皆様にも開示して何らかの形で御意見を頂く手続きを取りたいと思います。それらを踏まえて、市が買うのかそれとも民間事業者に任せるのかという判断をして、市が関与するという事になれば当然、議会の皆様のご理解をいただかなければなりませんので、議会と協力してやっていくということになります。

記者

このような大きな行政課題は、時間をかけてじっくりと議論してやっていくというのが望ましいと理解しているのですが、筑波都市整備は年内には決めたいということで、必然的に年内に市も決断を迫られると思います。12月までの限られた時間の中で、市民の理解を得ていくことが必要になるとと思いますが、どのように進めていかれるのですか。

市長

いきなり出てきた話ではありませんので、この中心市街地の問題については、アンケートや Web アンケートも取りましたし、これまでオープンハウスという形で御意見を聞いたり、まちづくりシンポジウムでも様々な御意見を伺ってきて、中心市街地のまちづくりビジョンを策定しました。さらに、広報によって市民のアンケートを開示してきました。実際のところ、かなりのプロセスを経てきたと思いますので、この先についてもぎりぎりの時間の中ではありますが、これまでやってきたことと大きな方向性の乖離が出ない限りにおいては、進めていけるものではないかと思っており、決断を迫られるというよりは、こちらが主体的にしていくものだと思っております。都市整備の状況がどうであろうとも、施政方針でも申し上げましたが今年度の最重要課題として捉えている中で、私どもも大きな力を注いでおりますので、そのフローの中に乗せて行っている認識でおります。都市整備が待てないからこちらがあわてて動く

とか、必ずしもそういう後ろ向きな話ばかりではございません。

記者

わかりました。いずれにしろ、まだどれくらい費用がかかるとか精査されている段階だと思いますが、大規模事業の見直しについて策定されましたけれど、総合運動公園についても住民投票をやられました。クレオの再生についても住民投票をされるお考えはありますか。

市長

これまで様々な形でご意見を伺ってきておりますので、現段階では考えておりません。アンケートをしましても、色々な形でご意見を聞いても、おおよそ意見の方向性は一致してきております。市民が望むものは公共施設もそうですけど、やはり商業施設中心です。商業施設と公共施設がある場所であってほしいという声は、手法を変えてもおおよそ同じで、唯一市民に聞いていなかった、果たして市が積極的に関与すべきかどうかという部分についていえば、前回のものでも1200人以上の声がありましたので、それはデータとして非常に有意なものであると思っております。これがもし8割が関与すべきではないということであれば、おそらくできなかったと思いますが、これまでの積み重ねてきているものと先日のアンケートの結果というのもだいたい延長線上にあるものでしたので、民意をかなり丁寧に、なぜそこまで聞くのかと逆に言われるくらい聞いてきてはいますので、住民投票は必要ないと思っております。

記者

丁寧に物事を進められているとは非常に評価できると思いますが、一方で、取り組みが少し遅いのではないかという指摘もあります。その部分はどのように捉えていますか。

市長

おそらくこれ以上のスピードで進めることはできないと思います。あらゆることを丁寧に積み上げながら、そこでできるぎりぎりのスピードでやっています。例えば、他の事例で同じ状況でこれより早く進められるかといえ、おそらくできないと思います。担当課の職員も本当に一生懸命に頑張ってくれていますし、我々も色々なところと交渉をして進めておりますので、かなり難しいパズルを積み上げていっていることではあると思いますが、それでも遅いと言われれば甘んじて受け入れるだけでございます。

記者

アンケートですが、つくば市外の方もいらっしゃって、しかもつくば市に住んでいるかも特定できないという弱点もあるかなと思っていて、9月に方向性が出たら、例えばこの前実験したブロックチェーンの技術を用いて何かやったらどうかと考えたのですが、検討などされていますか。

市長

マイナンバーカードが80%くらい普及すればおそらくできるとは思いますが、残念ながらまだ10数%ですので、市民の声を反映させるにはなかなか限定的になってしまいかと思います。

記者

昨日の資料を見ますと、年内に売却したいとの意向ということで、具体的に提案している民間企業もいるということですが、民間企業が購入した場合、なかなか市の意見をどれだけ反映できるか気になっております。今のところ市が買い取るかなどあらゆる選択肢を検討している状況だと思いますが、民間事業者が買い取るとなった場合、どれだけ市の意向や意見が反映できるかという目算が立っておりますでしょうか。

市長

民間事業者が買った場合にどうするかというのは、今まで議会で申し上げているのは、全部借りるあるいは部分的に借りるというのがそれに該当すると思います。事業者も公共施設は入れてほしいという要望があると聞いておりますので、その中で様々な交渉をしていくことになると思います。

記者

そうすると、民間事業者の意向を聞きながら、こちらの選択肢を狭められるということでしょうか。

市長

当初から申し上げている4つの選択肢ですね、全部借りる、一部借りる、全部買う、一部買う。もし民間事業者が買った場合は、公共施設として市が借りることについても話を進めていくこととなります。ただ、今の提案は旧イオン側をマンションにするという事業計画だと聞いておりますので、私どもとしましても色々と交渉しなければならないと思っております。

記者

旧イオン側をマンションにするというのは、市は容認できるものでしょうか。

市長

ここで勝手な話をしても仕方ありませんが、私どもが受けている意見では、あそこにマンションという意見は少なかったということはお伝えできると思います。

記者

アンケートの信頼性についてですが、意見がある人は意見を出してほしいということになれば、問題関心がある人しか出してこないわけです。そうすると、問題関心がある人は当然、なんとかしてほしい、こうしてほしいということで80%の方が市が関与してほしいと結果になったということでもあります。先ほども住民投票という意見がありました。少なくとも我々が世論調査をする場合、無作為抽出でやらないといい加減な結論になります。市のレポートにも、8割が市の関与をとなっておりませんが、これはかなり市が誘導した世論構成かなと私は理解しておりますが、いかがでしょうか。

市長

関心がある方はおそらく二方向に関心があるわけで、今回のアンケートでは、13.8%は市場動向に任せ市は関与すべきではない、とわざわざ言うためにアンケートに答えています。それではこの問題に無関心の方に聞いたら、それは分からないと回答すると思うので、意思表示はされていると思うので私としてはどちらに誘導したとは考えておりません。統計学的に有意になるという数字はあるとは思いますが、もちろん無作為抽出が理想的ではありますが、現実的に時間的にも限りがある中で、今回このような手法を取りました。そういう意味で、こういう回答だったらいいなとか、こういう印象を作ろうとか一切考えておりません。

記者

全員協議会の中でも何人かの議員が質問されていましたが、都市整備の経営能力や経営責任についてですが、自分の土地建物でありながらその後処理を自分でできないというのが結果として出ています。市もそれを放っておけないということで関与することになったと思います。都市整備の経営責任について、仮に、都市整備が倒産することになった場合、つくば市としては何が困りますか。

市長

その仮定のお話にお答えするのは難しいと思います。都市整備も年月が経って様々な事業を行っている中で、今回は西武の撤退が直接的な影響になり、また、周辺のショッピングセンターにおいてもなかなか苦しい状況があります。そのあたりにつきましては、経営の改善計画を都市整備が作っておりますので、それ以上のことを私どもから申し上げることはないと思っておりますし、今一生懸命頑張っ再生しようとしている地元の企業に対して倒産するかどうかという話について答えるべきではないと思います。

■小中一貫校の検証について

記者

小中一貫校の検証をやられていたと思いますが、その結果を市民に公表する予定はありますでしょうか。

市長

200数十ページと量が膨大であり、教育局としてもまだすべて詳細に読み込みきれていないと思います。一方で、それを基に、総合教育会議で議論しております。市としてどのように捉えるのか考えているところです。それらを踏まえて、隠すものではありませんので、整理ができればすべて公開すべきものだと思います。教育長、補足があればお願いします。

教育長

市長が答弁したとおりですが、個人としてはかなり読み込んで整理をしておりますし、どういった対応をすべきか私案は持っておりますが、今総合教育会議で議論していた教育委員を差し置いて私の考えを出す時期ではないだろうと思っております。できるだけ早い時期に、可能ならば今月中に教育委員の声を聞きながら集約できればといいなと思っております。各議員には9月議会が終わる28日に報告書本体

を配付しますので、その時期にあわせて報告書の本体について、記者会見をすることも考えなければならないと思っております。お待ちいただければと思います。

(終了)